

IBP アンケート（インターンシップ）

氏名：吉田 勇也

1) インターン先について

—会社／機関／団体名：WASO

—勤務地：Old Street

—業務内容：日本食のフードデリバリースタートアップ

3) 勤務内容について

—勤務曜日、時間：平日午前 8:30～午後 18:00

—指導者、指導者の所属と役職：WASO 創業者より直接指導

—自分の仕事内容：データ分析、アプリ開発

—インターンシップの感想を教えてください。

総合的に見て、WASO で働けたことは自分の財産になりました。日本にいた頃は大手企業でインターンをしようと考えていたのですが、ロンドンに来て様々なスタートアップに触れたり、カンファレンスに参加することで、自分も小さな会社で大きな裁量を与えてもらい責任感を持って仕事がしたいと思うようになりました。WASO ではその点、「これをしなさい」という形ではなく「何がやりたいの?」と徹底的に聞かれ、質問の論理性も磨かれる上、常に批判的思考ができるようになったことは大きな成長でした。

—英語コースやモジュールで学んだことがどう役立ったか教えてください。

大学の授業を通して、多国籍のクラスの中でも発言することを恐れず積極的に議論に参加したことがインターンでも役に立っていると思います。職場では常に自分の意見を求められるため、英語力はおろか自分の意見を発信する姿勢がないと一人前の社会人としては扱われません。日本の大学とは違い授業の中で自主性が求められる環境は、インターンをする上で最高のファンダメンタルを築くことが出来ました。

—海外で仕事をする中で感じた事（楽しかった事、苦勞した事、日本と違って驚いた事など）を教えてください。

こちらで実際に仕事をしてみて、仕事とプライベートのメリハリに驚きました。アルバイトでシティで働いていたのですが、平日夜でも 18:00 になれば全員きちんと職場を後にし、残業する人間は自分が無能であると言っているようなものだ、とある金融機関で働く現地の方が仰っていました。精一杯働いている姿を見せるのではなく、いかに仕事を効率的に短時間で仕上げプライベートも充実させるかが、こちらのビジネスマンの優秀さを示す指標になっているのだと実感しました。

—IBP プログラムを通して学んだ事、経験した事を、今後どのように生かしたいと思っているか、留学目的と併せて教えてください。

僕は FinTech に興味があり、ロンドンへ留学しました。Brexit が英国に与える影響を LSE のパブリックレクチャーで学んだり、実際にスタートアップでデータ分析を行ったりしました。その中で、やはりこの領域は成長産業であると共に、日本の FinTech 投資は英国の 10 分の 1 以下とまだまだ伸び代があることを知りました。帰国後はここで学んだ知見をもとに起業に向けて実務的なスキルを身につけていきたいと考えています。

ご協力ありがとうございました。